

南会津版作品集の発行にあたって

福島県教育委員会では、子どもたちの豊かな心を育成するため、平成十四年度から「十七字のふれあい事業」を実施してきました。平成二十八年度からは「ふくしまを十七字で奏でよう絆ふれあい支援事業」として、子どもたちがさまざまな体験から得た思いや感動を表現することで、伝え合う楽しさや喜びを実感するとともに、共通体験を通して、自分を支えている大人や友達の思いや願いを感じ取る機会となるようにしてまいりました。

県内はもとより県外に避難している方にも応募を募るなど、応募者枠の拡大も図ってまいりました。この事業は、小中学校の夏休み恒例の課題として根付いており、開始から昨年度までで、約九十四万人の応募数となっております。今年度は、応募者総数が延べ百万人を超えたことから、応募者より百万人突破記念のペアを選び、記念式典事業が実施されました。

今年度の応募数は、県全体で四二、五七五点（昨年度は四一、五〇二点）、この南会津からも一、五二九点（昨年度は一、四七二点で五十七点の増）の応募がありました。

また、審査には、豊富な社会経験を持ち、県内各地域にネットワークを持つ退職校長会や文化人の方にご協力いただくことにより、学校・家庭・地域が一体となった取組が推進でき、地域の教育力の向上や活性化が図られております。一次審査、二次審査、最終審査と大変質の高い審査をしていただくことができました。

この取組を通して、参加された皆様からも次のようなご意見をいただいております。

「夏を親子で振り返る本当に触れ合えるひとときでした。」「今年でこの子と十七字が終わると思うと感慨深いものがありました。」「たった十七字、されど十七字、十七字で絆が深まりました。」「改めて震災について考える機会になりました。」「など、この事業の成果が感じ取れる心温まるご意見が多く寄せられました。作品をお寄せいただいた皆様、お忙しい中、作品づくりに取り組んでいただきまして誠にありがとうございました。ありがとうございました。」

最後になりますが、南会津教育事務所では、県入賞を含めた第一次選考作品と、皆さんに読んでいただきたい「スマイル賞」作品を掲載した作品集を今回も発行することにしました。本作品をご活用いただくことにより、学校・家庭・地域において子どもと大人等の様々なふれ合いがさらに進められ、子どもたちの心がより豊かにたくましく成長することを願っております。

改めまして、毎年ご協力をいただいております各学校、関係機関並びに作品を応募された皆様に心より感謝申し上げ、刊行の挨拶といたします。

平成三十年一月

南会津教育事務所長 佐藤 則之